



職員と一緒に体操して健康維持を図る



企業との連携により導入した最新機器で体力測定も可能



一生懸命職員の動きを真似する入居者たち



インカムの導入でかなりの業務時間が短縮



代表取締役社長の熊田圭佑さん



ベテラン職員が多く質の高いケアを実践

週休3日など 挑戦的な 取り組みで 職員が集まる

中部地方で最多の人口を有する愛知県名古屋市中白区植田という閑静な住宅地の中にあるのが、住宅型有料老人ホーム「マイスターハウス植田」だ。地元では知られた高級感の漂う地域で、外観は介護施設に見えないデザインになっている。地下鉄の駅から徒歩5分とアクセスも良い。昨年9月にオープンしたばかりで、定員25人の全室個室となっている。運営するMeister株式会社代表取締役社長の熊田圭佑さんは、医療法人で介護職員や事務長、法人本部経営企画等に従事したあと、世界最大規模の会計事務所「デロイトトーマツグループ」で介護事業者向けのコンサルタント業務を務めてきた経験をもつ。「介護現場で働いていたときからの理想と、コンサルタントとして数多くの施設を見て素晴らしいと感じた施設を融合することで、介護業界で手本にしてもらえるような施設をつくってみたいと思いました」と、介護業界に参入したきっかけを語る熊田さん。施設は土地所有者が建て、同社が土地建物を賃借するかたちで運営する。

オープンするにあたり、職員募集の段階から従来の介護施設とは異なるこれまでにない新しい取り組みを行っていくことを前面に掲げたことで、常勤職員10人募集のところに100人以上の応募があったという。熊田さんは介護についての思いをもつ人を選考で重視したところ、ベテラン職員を多く採用する結果となった。一般的には業界経験年数は平均3年程度と言われているところ、同施設の平均は約12年と、経験豊富な職員が揃った。

常勤の職員には、基本的に週休3日制度を採用している。一般的には1日8時間労働で週5日勤務となるが、1日10時間労働で週4日勤務となる。職員からも好評で、前職で特別養護老人ホームでの勤務経験が長い秋田論人さんは「最初は1日の勤務時間が長く感じますが、続けていると慣れてくるものです。これまで夜勤明けだと休日がつぶれてしまい、休みが少なく感じるところもありましたが、週休3日になると仕事とプライベートがしっかり分けられていると実感できます」と満足度が高い。勤務日数が減ると、1日分の通勤時間がプライベートな時間に変わり、1年間で見れば決して少なくない。また、介護業界は女性職員が多いので、メイクにかかる時間が減るのは大きいという意見も出ている。

同施設は、ICTの活用による業務効率化を推進。職員全員がスマートフォンを持ち、LINEワークスを使ってコミュニケーションを円滑にしているほか、インカムの導入で他の職員を探す手間が省け、入浴介助だけでもトータルで2〜3時間の短縮につながっている。業務効率を高め、無駄な時間を極力省いて利用者と触れ合う時間をつくるのが同施設の方針だ。

続きは、本誌3月号をご覧ください